連載：『小児科医やぎさん通信』 第３回

プレネイタルビジット（出生前小児保健指導）の話

新潟市「やぎもと小児科」医師　柳本 利夫

生むまえに小児科に行く

第一子を出産して里帰りした娘が「うちは赤ちゃんのことを親にすぐ聞けるからいいけれど、普通のうちならすごく不安になると思う」と言っていました。実感だと思います。子育てを始めたばかりの母親は不安になるのは当然です。このような母親の不安を少しでも減らしたいと考えて、以前からプレネイタルビジットを行っています。プレネイタルビジットというのは小児科医院に妊婦さん夫婦が訪問し、子どもの保健の話を小児科医師から聞くというものです。始めたのは平成13年ですから、かれこれ13年ほど続けています。

初めの頃は、「ご心配のことがあればぜひ何でも聞いてください」と意気込んでいました。でも、ご夫婦は顔を見合わせて首をかしげています。確かに、妊娠中は「無事に生む事」だけで気持ちがいっぱいで、育てることはまだ考えていないというのが現実です。そこで私は、「こんなことを知っていらっしゃると役に立つ」という事を選んで話をすることにしました。予防接種の話、子どもの風邪の話、ご夫婦と対話しながら、必要に応じてアレルギーの話、部屋の環境や赤ちゃんの外出の話などを伝えます。また、赤ちゃんの人工呼吸や心臓マッサージ、それから窒息時の対応について赤ちゃん人形を使って解説します。人形はリアリティがあるためか、皆さん熱心に聞いています。最後に「よくある赤ちゃんの症状ベスト15」の資料をお渡しします。このようなプレネイタルビジットは、出産前に小児保健の具体的な情報を学んでもらうのに適しています。初めて子育てをする母親への不安への対応として、すぐれていると感じます。また、生まれた後おつき合いすることになる小児医療に対して、少なからず親しみを持ってもらう機会になればいいと考えています。

プレネイタルビジット後が気になる

プレネイタルビジットにいらした妊婦さん達は、出産後、それぞれの自宅に帰り子育てを始めます。多くは私の医院の診療圏ではありません。ですから直接に相談にのることはできない事が多いのです。でも、生まれてから実際どうされていらっしゃるのかは気になるところです。そこで、母親の不安に対応できるように、生後３～４週後に電話訪問で様子を尋ねることにしています。ちょうどママの不安がピークを迎える頃です。大多数の母親はさしたる大事件もなく、元気に子育てをしている事が確認できます。さらに、生後２か月頃、少し子育てに慣れてきたと思える時期に、プレネイタルビジットについてのご意見を聞くアンケート用紙を郵送しています。アンケートの回収結果をみると、プレネイタルビジットは大変好評で、生後の電話訪問も安心感を与えているようです。お渡しした資料もとても役に立ったという意見が多いです。

プレネイタルビジットの出会いはまさに一期一会であり、それ以降は会うことは少ないのですが、自宅が近所ですと私の医院を受診してくださいます。子どもを診察しながら、「あなたは生まれる前に一度来ているよ」と思うとちょっと不思議な感じです。親密感があるのです。プレネイタルビジットは出産前に親が小児科医と出会う機会ですが、小児科医にとってもそのつながりは意味があるようです。

子育ての仲間づくりが必要

プレネイタルビジットでは「ご自宅の近所にいる子育て中のママと情報交換するといいですよ」とアドバイスします。小児科医は病気になった時には専門家として役に立ちますが、母親が日常の子育ての中で感じる小さな疑問や困惑へのアドバイスは不得意です。特に男性小児科医は、自分の子どもは妻にまかせっきりという経歴の持ち主が多いためです（それは後々まで妻から非難されます）。子育ての生活の情報交換は、やはり母親同士のほうがいいのです。プレネイタルビジットは他の母親と顔見知りになる場ではないため、子育ての仲間づくりには不向きです。母親の仲間づくりの場所や機会が必要だと感じていました。ですからＢＰプログラムのことを聞いた時、これは私が必要と思っていたものにかなり近い、と感じました。これが私のＢＰプログラムとの出会いです。

夏の佐潟（さかた）と角田山

●佐潟は新潟市の田園地帯にある砂丘湖です。水鳥の飛来地としてラムサール条約に登録されており、周囲に小鳥も集まるため、筆者は週に一回バードウォッチングに行くのが楽しみです。